

【2024 年 JTA テニスルールブック 主な改訂点】

※ルールブック内の縦線は 2024 年度変更点。

P11 b) タイブ레이크ゲーム

タイブ레이크ゲーム第 1 ポイントのサーバーとなるべきプレーヤー/チームは、次のセット第 1 ゲームのレシーバーとなる。

【解説】 現ルールブックの表記は、タイブ레이크の 1 ポイント目を間違えたプレーヤー/チームがサーブをしてしまうと、そのプレーヤー/チームが次のセットのレシーバーになるとも読むことができてしまう。

タイブ레이크の第 1 ポイント目を間違えたプレーヤー/チームがサーブをしてしまったとしても、本来第 1 ポイント目をサーブするはずだった選手がレシーバーとなる。

P55 Q7) 電子機器の使用

電動ファン付きジャケット・ベストの着用および電動ファンについては、各エンドチェンジ・セットブレイクの時間内に限り使用することができる。

【解説】 電動ファンは電子機器の部類に入るが、少しでも安全にプレーをしてもらうためにエンドチェンジ・セットブレイクの時間内のみという条件付きで許可する。

P36 ボールマーク・チェックの手順について

8. チェアアンパイアが BMI の最終判定をする前に、プレーヤーが自らボールマークを消した場合は、プレーヤーは最初のコールまたは、最初のオーバールールが誤りであると認めたと判定する。

【解説】 ボールマークを消すという行為は、そのボールマークをチェックする必要がない、つまりそのコールが誤りであると認めるということである。

P60 Q24) スコアの誤り

試合中のスコアの誤りが試合終了後にわかった場合は、その誤りは訂正できない。チェアアンパイアがゲームセットアンドマッチとアナウンスした時点で試合終了となる。試合終了後、主審が試合結果のスコアを間違えて報告した場合は、スコアカード・PDA の試合結果を確認し訂正することができる。

チェアアンパイアのいない国内公式トーナメントでは、両プレーヤー・チームが勝敗を認めて握手した時点で試合終了となり、試合中のスコアの誤りについて訂正することはできない。試合終了後、勝者が試合結果のスコアを間違えて報告した場合は、両選手の同意が得られれば試合結果を訂正することができる。 試合中、スコアの誤りを訂正したら、すでにセットが終了していた場合、（例えば 6-5 は誤りで、訂正したら、6-4, 0-1 であったという場合）、セット終了のスコアを有効とし、以後続いたプレーの結果

のスコアは、次のセットのスコアとして有効となる。

試合中に間違いを訂正した場合、同じ内容について再度訂正をすることはできない。

【解説】 試合結果のスコアを間違えて報告してしまった場合の対処法を追加。

試合中のスコアの誤りにおいては試合終了後の訂正はできないが、スコアの報告の誤りは、両選手が合意している場合のみ訂正が可能。主審が付く試合においては、スコアカードや PDA に記入された結果を確認し訂正できる。

P132 ラウンドロビン方式

※残り2チームになったら優先順位3で決定する

【解説】 ITF に合わせ内容を変更。残り2チームになった場合は直接対決の結果で順位を決定する。

P148 男子 表内のシャツ/セーター上着

コマーシャルロゴまたは製造業者ロゴ 39cm²以内の1パッチに2つまで付けられる。

【解説】 ITF に合わせ、コマーシャルロゴだけでなく製造業者ロゴも1パッチに2つまで付けられる。

P.148 帽子/ヘッドバンド/リストバンド

帽子/ヘッドバンド/リストバンド/マスク

男子：帽子・ヘッドバンドは 26cm²以内の製造業者ロゴを1つ。

26cm²以内のコマーシャルロゴ1つは頭部の側面につける。

リストバンドとマスクは 26cm²以内の製造業者ロゴを1つ。

女子：帽子・ヘッドバンドは 19.5cm²以内の製造業者ロゴを1つ。19.5cm²以内のコマーシャルロゴ **1つは頭部の側面につける。**

リストバンドとマスクは 19.5cm²以内の製造業者ロゴを1つ。

【解説】 男女での表記順を統一し、マスクを加える

P207 チェアアンパイアのつかない試合方法

チェアアンパイアがつかない試合では、以下の方法に従って選手自身が判定を行う。試合中のトラブルを回避するために、選手は日本テニス協会が推奨する「セルフジャッジの5原則」を遵守し、フェアな判定で正々堂々とプレーすることが求められる。ダブルが解決しない場合は速やかにロービングアンパイアまたはレフェリーを呼ぶ。

***セルフジャッジの5原則のチラシ：JTA ホームページ→情報→インテグリティ→フェアプレー推進**

【解説】セルフジャッジの原則についてタイトル後に挿入。

P208

1. セルフジャッジの方法

ダブルスのペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレーヤー/ チームが「グッド」に訂正した場合も同様の扱いとする。

【解説】上記文言をセルフジャッジの方法 4)から削除し、15) に移動する。内容は変更なし。

P209

15) 誤ったコールを訂正した場合（クレーコートを除く）

インだったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール（ミスジャッジ）したとしても「グッド」に訂正（コレクション）し返球が正しく相手コートに入った場合、1 回目は相手への故意ではない妨害としてポイントレットにする。そして、2 回目以降は故意に妨害したとして失点する。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット・エースまたは返球がアウトした場合は相手への妨害が起こっていないので、1 回目であってもミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。

【解説】コール訂正によるポイントリプレイの条件を ITF 見解にあわせる。自分のコールで自分が妨害を受けることはないため返球がインの場合、アウトの場合で異なる。

P213

6 コートオフィシャルのコードオブコンダクト

審判員の順守事項

9. ソーシャルメディアの使用

- i) 選手やコーチ、大会主催者のいかなる投稿にも、いいねやシェア、コメントをしてはならない。
- ii) 選手やコーチ、主催者をフォローしたり友達になったりしてはならない。
- iii) イベントや選手、主催者等のハッシュタグを使用してはならない。
- iv) 試合や選手、アサイメントや結果等の情報を投稿してはならない。
- v) ルールや規則、運営組織について意見をしてはならない。
- vi) 大会開始前及び開催中に、大会会場での自身の写真を投稿してはならない。

【解説】2023 年に公表されたソーシャルメディアガイドラインの内容に沿ってソーシャルメディアの使用についてのコードを追加。

審判員の順守事項

15. あらゆる刑法、本書第 8 部日本テニス協会関連規則 2. 倫理規程および ITIA テニス腐敗防止プログラムを遵守しなければならない。試合中のコートへスマートフォン/スマートウォッチの持ち込みは禁止されている。

【解説】TIU から ITIA へ名称の変更とコートへのスマートフォン/スマートウォッチの持ち込み禁止を挿入